

斑鳩町協働のまちづくり活動提案事業

このまちで「つくる暮らし」

～暮らしの中の「農」編～

令和4年度活動報告

2023.07.07

つくる暮らしの会

# 「つくる暮らし」とは

欲しいものを買うばかりの生活ではなく、  
自然や地域の恵みを活かしたり、  
捨てられているものや古いものを活かして、  
暮らしに必要なさまざまなものを自分でつくる暮らし

その土地に暮らす感覚  
地に足がついた  
暮らしの感覚

また、このような暮らしを実現させるために、  
自分で考え、何かを生み出そうとする精神や行動力

# 「つくる暮らしの会」

プロではなく、  
一般素人の  
チャレンジ

- 昔は日常にあった「つくる暮らし」を、  
子育て世代、働く世代のフィルターを通して、  
現代の暮らしの中で実践。共感の輪を広める目的
- 斑鳩の自然や歴史の中で暮らす素晴らしさを実感すること  
ができる、古くて新しいライフスタイルの提案

# 暮らしの中の「農」編

令和4年度  
テーマ



写真：1970年頃 天満池ほりからの東里  
斑鳩の記憶データベース「チエノワ・イカル」より

「農」のもつ多面的機能

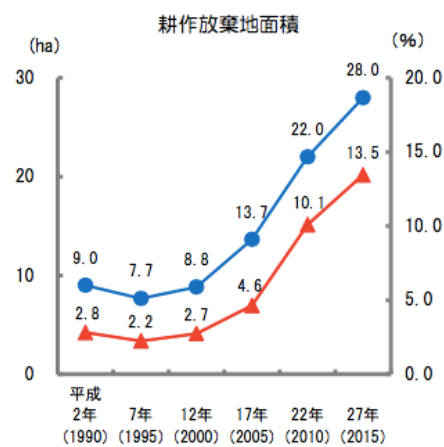
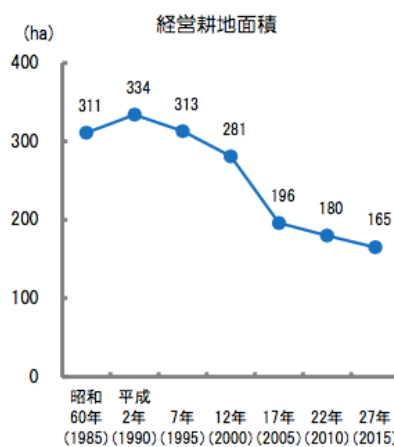
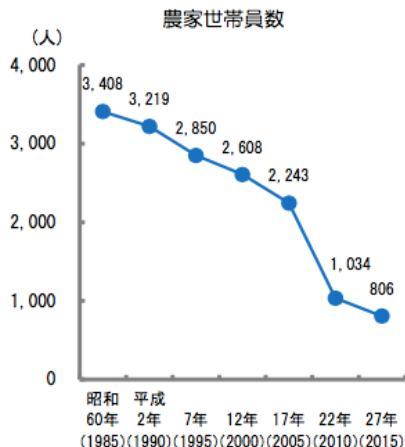
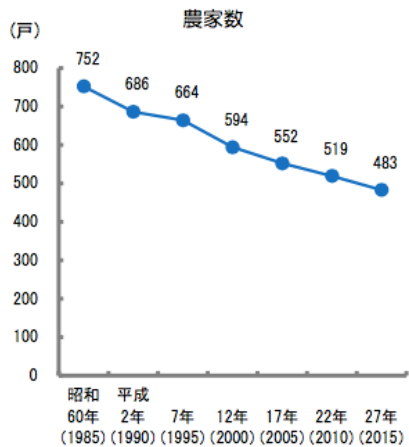
「斑鳩の里らしさ」とほぼ同義

- 田畑は「つくる・食べる」  
根源的な営みを支える地域資源
- 美しい田園風景の形成
- 地域の伝統・信仰の由来
- 防災機能（洪水・延焼の防止等）
- 生物の多様性保全

# 暮らしの中の「農」編

非農家を含め  
「農」の価値を  
問い直す

農や農地は、食の安全保障、斑鳩の里らしい景観保全、洪水防止等の防災機能、生物多様性など、多面的な機能があるにも関わらず、町内の農家数は激減し、耕作放棄地は増加しています。



出典：令和3年「斑鳩町都市計画マスタープラン」

● 耕作放棄地面積 ▲ 耕作放棄率

資料：農林業センサス

# 活動内容

農家の方のみならず、非農家にとっても「農」を身近なものとして考えることができる企画やイベントを行い、暮らしの中で「農」に触れる機会の創出を目指しました。

主な活動内容は、①「斑鳩の里 農産物直売所マップ」作成、②「すきまヤタイ」製作、③「いかるがマルシェ」ブース出店、④イベント「座談会～小さな農のすゝめ～」開催の4つです。

令和4年5月

直売所マップフィールド調査

9月～翌2月

直売所マップ掲載依頼、マップづくり

3月

マップ完成  
イベント開催

7月～10月

「すきまヤタイ」製作

11月

いかるがマルシェ出店  
「すきまヤタイ」お披露目

# 1

## 斑鳩の里 農産物直売所マップ

- 町内にある無人販売・直売所の情報を集約しマップ化することで、顔の見える範囲内で「つくる⇔食べる」という関係の輪を広げる目的。
- 町内の直売所を探し、31カ所の店舗から掲載承諾を得て作成。
- 2,000部印刷。町内公共施設や店舗、協力直売所へ配布。
- Googleマップを活用したWEB版マップも製作。



会メンバーによる  
デザイン



子ども達とマップづくり  
フィールドワークの様子

# 2

## すきまヤタイ

- まちなかの農産物無人販売所から着想を得たアイデア。
- 住民同士のコミュニケーションツールとして、まちの隙間で活用できるコンパクトな「すきまヤタイ」を企画。
- 奈良県建築士会青年委員会が設計・製作協力。



製作風景



左「組み木号」、右「転がし号」  
2台合体の様子

今後の展開として  
シェアサービス、  
ヤタイづくりワー  
クショップ等を  
予定



# 3

## いかるがマルシェ

- いかるがマルシェにてブース出店(11月23日)。
- 地元野菜・もみ殻くん炭の販売、藁細工体験ワークショップを実施。雨にも関わらず商品は完売。
- 「つくる暮らし」に共感してくださる方々と直接触れ合えた印象深い1日に。



すきまヤタイ



野菜販売



もみ殻くん炭販売



藁細工体験  
ワークショップ



## 4

座談会  
小さな農のすゝめ

- 地域の農や食、里山に関心のある人たちが繋がる1日となる目的で企画(3月18日)。他団体のブース出展も多数予定し、お祭りのような企画だったが、当日は雨天により屋外開催は中止に。
- 屋内会場にて、座談会「小さな農のすゝめ」のみ開催に変更。急な変更だったが約30名が参加。
- ゲストスピーカー3名とともに、「小さな農」をキーワードに活発に意見交換する場となった。



告知チラシ



ゲストスピーカーのトーク



タネ配布



小グループでの意見交換

ゲストスピーカー

岡田 力士さん【斑鳩の里ふれあい野菜クラブ】

東樋口 正邦さん【eminini organic\*farm】

安村 晃一さん【いかるが援農会】

# 事業の実施効果

- 『斑鳩の里 農産物直売所マップ』づくりにあたり、たくさんの農家や各種団体の方々にご協力をいただきました。横の繋がりを持てたことは、当会にとって大きな財産となりました。また「こういうマップを作って欲しかった」「これを機会に多くの人に直売所を知ってもらえたら嬉しい」等のお声をたくさん頂きました。この繋がりを今後も生かしていきたいと思えます。
- 『すきまヤタイ』についても「使ってみたい」「興味がある」というお声かけを数件いただいております、関心度の高さが伺えます。まちなかの活性化・地産地消の機会増大に、すきまヤタイが一役買える可能性を感じており、引き続き今後の展開を進めていきたいと考えています。
- 会メンバー5名の他に、昨年度募集をスタートさせた『コミュニケーション会員』は現在29名の登録があり、確実に共感の輪が広がっていると感じています。

# 課題

- 農や農地について、子育て世代や働く世代も興味はありつつも、時間的な制約や、農地を持っていない（持っている知り合いが身近にいない）等により、活動しにくいという課題があります。シニア層と若年層とが、互いの思いや資源を交換できるような、交流の場づくりが引き続き求められます。
- 農や農地には多面的な機能があり、例えば、景観の側面からは「斑鳩の里らしさ」を支える重要な役割を果たしています。農地が失われること・荒れることは、斑鳩をどんなまちにしていきたいのかに関わる問題です。個別の課題としてだけでなく、大局観を持って議論する場が不足していると感じています。

# 担当課との連携内容

1. 広報活動
2. イベント協力
3. 情報提供（農家情報、各種制度情報等）

# 担当課からのコメント

農業活動については単なる生産活動だけでなく、景観や防災機能など多面的な機能を有しており、斑鳩町においても重要な役割を担っております。しかしながら、農業者の高齢化、担い手不足などにより、どんどん農業者が減少し、遊休農地が増加している現状があります。

農業に興味を持っていただける方もおられる中、農業の体験ができたり、農家の方と触れ合うことができる場というのはあまり無かったので、農家の方と一般の方が交流を持てるような場を作っていただき意見交換することで、農業をより身近に感じ、より興味をもっていただく良いきっかけになったと感じています。今後も、一般の方と農業が結びつき、遊休農地の解消等につながっていくことを期待しておりますので引き続き事業の継続を実施していただけますようお願いいたします。

斑鳩町都市建設部建設農林課